NASA

夕星 祭

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＮＡＳＡ

【Ｎコード】
Ｎ４４７３ＢＡ

【作者名】
夕星　祭

【あらすじ】
ヤマ無し。ただし丘は出る！

卒業式の夜。僕はたった一人の同級生だった彼女を連れて、高い、高い、丘の上に来ていた。学校の裏手にある、僕の背丈よりも随分と高い丘だった。

丘のてっぺんに彼女と座り、夜の空を見上げると、そこでは無数の星たちが光を瞬いていた。ここには統一された時間が存在しない。一万光年先にある星から届いた光は一万年前のものであるし、一億光年彼方にある星から届いた光は一億年前のものなのだ。彼女の目に飛び込んだであろう星空は、厳密にいえば僕が見ている星空とは時差がある。

視線を落として、まわりの風景を眺めた。平地になっていた丘の頂上は、廻りを樹木によって取り囲まれている。決して均等であることなく、全てがバラバラで各々の高さを持つ木々に。

今、僕たちは不統一の中に身を置いていた。いや、そもそも世界に統一されたものなんて無くて、全てが不統一なんだ。

僕たちは、世界にいた。

再び視線を上げて星空を見る。

「きれいだね」

僕は思ったままの感想を口にした。隣に立っていた彼女は小さな顔を頷かせた。

ここに来たことに、別に理由なんてなかった。ただ何かに連れられるようにして、夜の空下にやってきた。

ふと、右手に感触がした。目をやると、彼女が僕の手を握っていた。僕は何も言わず、空を眺めた。

「狐の嫁入りってしってる？」

空を見上げながら、数時間が経ったときのことだった。彼女からそんな質問をされた。

「しってるよ。天気雨のことでしょ」

「なら、こんなに綺麗な星空の日には、何が嫁入りすると思う？」
「何だよいきなり」
「えへへ」
僕は思うままに動物の名前を上げていった。彼女はその全てに首を横にふった。
「正解はね。私が嫁入りするんだよ」
「嫁入りって、誰に？」
「あなた」
「僕に？」
「うん」
意外な告白を受けてしまった。僕は顔を紅潮させてみた。釣られて彼女も頬を赤らめた。
「回答を頂けませんか？」
僕はうつむいて黙りこくった。どうせ了承するのに。
「狸寝入りはダメだからね？」
僕は顔を上げ、彼女を抱きしめた。

まるで異なる他人同士が、ほんの一歩だけ近づけたような、そんな瞬間だと。僕は今をそんな風に捉えた。
その一歩が、ただの一歩なのか偉大な一歩なのかは、僕にはまだ分からない。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4473ba/

NASA

2012年1月12日01時01分発行